

巻頭
記事

年頭のごあいさつ

12月例会開催

委員会対抗 dスポーツ大会開催

青経連交流会開催 トライアスロン実行委員長決定

第7回大山お地蔵さまフェスティバル第2回実行委員会開催

卒会にあたり

1月役員会報告

Be a player

No.390

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 奥森秀夫 ◆編集責任者/担当 副会長 渡邊公平 ◆制作・編集 第47期広報委員会/委員長 下村英一

年頭のごあいさつ

鳥取県西部中小企業青年中央会

第47期 会長 奥森 秀夫

新年あけましておめでとうございます。

旧年中はOB会員の皆様をはじめ、各関係機関及び会員所属企業並びにご家族の皆様には、当会活動に格別なるご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

また、会員の皆様には47期スタートの7月以降、県内でもコロナ感染者数増加の中、一人一人が考え声を出し、様々な新しい形に取り組んでいただき47期上期も歩みを止めること無く全事業を開催することができましたことを改めて感謝申し上げます。

未だ終息が見えないコロナ禍の不安定な状況だからこそ、一つの考えで進むのではなく多様な考え、思い、経験を全会員が声に出しそして耳を傾け進まなくてはなりません。そして、会員一人一人が supporterではなくplayerとして会の活動、ビジネスに対して真摯に取り組む。そのことによって、西部青年中央会または西部地域が彩り豊かになっていくことを願い、本年度はスローガン「彩 irodori」、テーマ「Be a player」と掲げ、5つの委員会で切磋琢磨し活動しております。

7月の総会は全会員に向け映像配信という形で執り行い、8月は正副委員長が企画しました「会員による活動事例紹介」、9月はビジネス経営委員会が担当の「将来も社会から必要とされる企業になるためにSDGsを通して学ぶ例会」、10月は政治行政委員会が担当し、伊木市長を講師としてお迎えし「米子、境港間の高規格幹線道路について学ぶ例会」、11月は広報委員会が担当の「SNSを利用した企業の可能性を知る例会」、12月は地域彩り委員会が担当の県外か



らIターンをし鳥取県で起業し活躍されている方を2名講師としてお迎えし「鳥取県の魅力、可能性を考える例会」を開催いたしました。これまでの事業は会場参加とZOOM参加の併用として開催してきましたが各事業とも圧倒的に会場参加が多く、会員の皆様が自己研鑽の場を求めると共に人と触れ合うことでの自己の成長を求めていることを感じております。

新年より下期の活動に入っております。これまで以上の苦境に立たされる可能性もありますが、当会の綱領「英知、友愛、団結」のもと会員一同で邁進していく所存でございます。

本年の皆様のご健勝、ご多幸をお祈りすると共に、今後とも当会へのより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のごあいさつ

鳥取県西部中小企業青年中央会
第47期 県会長 永井 拓未

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は、皆様に県青中の活動に関しまして格別のご厚情を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

昨年は一昨年と同様、COVID-19に世界中が大きく動かされた一年でした。テレワークやweb会議などの密を回避するための新しい行動様式が浸透しました。情報技術が急速に活用され、私たちの社会、生活を大きく変容させていることを実感しています。というよりもむしろ、もともとあった変化のスピードを加速させていると表現すべきでしょうか。

私たちは中小企業の経営者、幹部としてWithコロナ/Afterコロナの新たな生活様式、変化する社会や顧客のニーズへの対応など、今後も難しい舵取りが求められますが、慎重かつ大胆に必要な対策を立案し変化していくことの大切さを痛切に感じています。

今期は「BE THE CHANGE」のテーマの下、9月には委員長・副委員長交流会の開催そして11月には研修事業の実施と上半期の活動を展開して参りました。委員長・副委員長交流会では、スポーツ（パタンク）を通じて会員間の親睦を図りましたが、手頃な楽しみ、戦略性もあったので和気藹々と非常に盛り上がる事が出来まし

た。研修事業では講師をお招きし、約2年ぶりとなる集合形式での研修を行うことができました。懇親会の開催はできませんでしたが、名刺交換会を行い会員間の交流を深めることができました。

県青中の活動の意義は、学びや自己研鑽もありますが第一

は仲間をつくることではないでしょうか。これから直面する問題やビジネスチャンスなどについて一緒に向き合える仲間が地域の垣根を越えて全県下に存在するということは大きいと思います。事業に参加してこそ生まれる縁がありますので、是非とも今後も積極的な参加をお願いします。

残る下半期も益々会員間の連携が取れ、団結出来るよう邁進して参りたいと思います。後半戦もしっかりと活動して参りたいと思いますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。



トライアスロン実行委員長決定

第47期参与 山口尚文
(山進運輸株式会社 代表取締役社長)



この度、第40回 全日本トライアスロン皆生大会の実行委員長を拝命いたしました山口です。実行委員長を拝命するにあたり、中央会と皆生トライアスロンとの関わりについて一から勉強し振り返ってみました。その時々状況に合わせ、多くの先輩方が情熱と責任を持ってトライアスロンに関わってこられたことに改めて敬服し、私も決意を新たにいたしました。皆様もご存じのとおり、当会も会員減少に見舞われ、これまで通りのサイズ感での活動があらゆる場面で難しくなっている状況の中で、今後も継続してトライアスロンと関わっていけるように全会員で準備を進めてまいります。

残り半年で私も卒会となりますが、このタイミングで実行委員長の任を受けたことの意味と役割から目を逸らさず、精一杯つとめあげたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

新年例会に向けて

総務委員会委員長 景山慎也
(サンクリーン株式会社 取締役営業部長)



令和3年度下期初めの事業として、2年ぶりに「新年例会賀詞交歓会」を開催できることに総務委員会一同、心を弾ませながら企画しております。

当たり前が変わったこの2年という時間を新たな日常として過ごす中、ご来賓・OB会員の皆様に安心してお越しいただき、楽しんでいただける事業になっています。

今期第47期のスローガン「彩」を取入れた新入会員アトラクション。これには昨年時間を割いて練習に取り組んだ46期新入会員とのコラボレーション企画も準備しております。生き生きと躍動する現役会員のアトラクションをお楽しみください。

2年分の思いを寄せ、ご来賓・OB会員・現役会員を繋ぐ大切な事業となります。

ご参会くださる皆様と大きく強固な輪を紡ぎ、地域経済人として一致団結して新たな年の船出といたしましょう！

12月例会開催 「鳥取の魅力を再認識し、地域の特性を活かした事業展開について学ぶ」

令和3年12月15日(水)、米子コンベンションセンターにて12月例会が開催された。

会の冒頭、奥森会長の挨拶にて、「第47期も前半戦を終えようとしていますが、コロナの状況下でスタートした中、会員の声・経験・知恵で予定していた全事業を乗り越えることができました。1月から後半戦へと入るが、コロナ感染者数はまだ不安定な状況には変わりなく、またこれから大きな壁にぶち当たることもあると思うが、その際は会員1人1人の力をお借りして47期最後まで全うしたいと思うので引き続きよろしくお願ひします」と語られた。また本例会について「本講演を通して鳥取県の実力を再認識するのはもちろん、どのような目線を県外へと向けていくのか。自分の道は自分で切り開く、そのような気持ちで聞いて頂きたい」と述べられた。



いる事業内容などについて講演という形でご紹介頂いた。宇佐美氏はドローン事業やスポーツ事業を通し鳥取の魅力・可能性を話され、坂本氏はITを基軸とした事業やサービスを通して、地方への仕事のシフトや新規事業・地方ビジネスの考え方などを話された。また鳥取県の特徴や鳥取県民のメンタリティを、ともに県外のご出身である両講師ならではの視点で話された。



第2部においては、クレイジー8というブレインストーミングの手法を用い、

人口減少・観光資源・農業など与えられた課題に沿ってディスカッションを行ない、会員からは各課題解決に向けて様々なアイデアが飛び出した。

第1部・2部を通して、日頃見落としがちな鳥取の実力を再認識し、地域の特徴・強みを活かしたビジネスを考えるきっかけとなる例会となった。



続く委員長タイムでは、広報委員会・下村委員長が登壇し、所属企業(山陰建設サービス㈱)の事業紹介を行なった。特にコンクリート構造物の工事・工法について、いくつかピックアップして会員へと紹介し、「コンクリート構造物のことで困ったらぜひご相談ください!」とPRされた。

本例会は「鳥取の実力を再認識し、地域の特性を活かした事業展開を学ぶ」というテーマのもと、宇佐美 孝太氏(㈱skyer 代表取締役)、坂本 哲氏(㈱アクシス 代表取締役)の2名を講師としてお招きして行なわれた。

まず第1部においては、両講師よりそれぞれの会社や鳥取県で行なわれて



(記事:小坂)

委員会対抗 dスポーツ大会開催



12月例会閉会后、会場をクインボウルに移し、中央会初となる「委員会対抗 dスポーツ大会!」を開催!初めに、奥森会長より12月例会の振り返りと「上期事業、お疲れ様でした。そして皆様と力を合わせて47期を素晴らしいものにしていきましょう!」とご挨拶を頂いた。



dスポーツ大会...それはドローンを使い、華麗な操縦テクニックを持って10m先にあるボールを先に落とした方が勝利となる大会である。各委員会選抜メンバー3人構成で、5つの委員会によるトーナメント形式で行われた。初めに奥森会長と高塚直前会長によるデモンストレーションがあり、開会に花を添えて頂いた。また、対戦前には各委員会による応援戦があり、どれも気合の入った応援で、選手はよりいっそう気合が入った様子だった。そして舞台は決勝...広報委員会

VS政治行政委員会! 2人終わって1対1で迎えた最後の3人目! 選手2人の真剣な顔、ドローンの風切り音、交差するドローンたち...素晴らしい接戦の中、タッチの差で山口参加が操縦するドローンがボールを落とし、政治行政委員会が優勝! 最後まで見事な戦いであつた! おめでとうございます! 第2回が開催される際には、操縦技術が上達し、より白熱した戦いが繰り広げられることでしょう!

(記事:河津)

12月例会を終えて



地域彩り委員会委員長 安藤睦男 (山陰フェンス工業有限会社 専務取締役)

本例会では、「鳥取の実力を再認識し、地域の特性を活かした事業展開について学ぶ」をテーマに開催いたしました。鳥取県は現在、人口最小県、少子高齢化、公共交通の不便さなど他地域と比べて課題が多くあります。その多くの課題をビジネスチャンスと捉え、県外から移住され我々に無いような視点や価値観から魅力ある事業展開をされておられる(株)skyer代表の宇佐美様と(株)アクシスの坂本様にお越しいただきました。第1部では実際に魅力ある事業に取り組んでいる実例を紹介いただきながら、鳥取の可能性や事業展開の可能性についてご講演頂きました。第2部ではクレイジー8という手法を用い、会員のアイデアと知識で鳥取の新たな事業展開を考える場と致しました。短い時間の中ではありましたが、会員の中から活発な意見交換が行われ、今後の社業にも活かせる機会だと感じました。また本例会ではZOOMを活用したハイブリッド形式を委員会で行うという試みでしたが、当日ZOOM参加者0名ということで急遽中止させて頂きました。ハイブリッド開催に向けてマニュアルを作成しましたので、今後の例会ではご活用頂ければと思います。

鳥取県西部地区青年経済団体連絡協議会交流会開催

令和3年12月2日(休) YSPボウルにて令和3年度鳥取県西部地区青年経済団体連絡協議会事業として4団体交流ボウリング大会が行われた。



はじめに、今年度の主幹団体である米子商工会議所青年部の山城伸一会長から、挨拶及び趣旨説明、コロナ禍における交流ボウリング大会実施の思いが語られ、その後4団体の会長・理事長が始球式を行い、交流開始となった。



実況を当会の高岩会員が担当し、臨場感あふれる実況で会場を大いに盛り上げた。

交流ボウリング大会

後は、ANAクラウンプラザホテルに場所を替え懇親会が行われた。懇親会では4団体の会長・理事長の青経連をテーマとしたトークセッションの上映や、各団体の紹介、協賛企業の紹介、ボウリング大会等の表彰が行われ、盛況のうちに閉会となった。



懇親会では上映されなかったが、青経連事業の中で当会PR動画を作成したため、まだ視聴していない



という会員については、会場で配布されたQRコードからは是非一度視聴をお願いしたい。

(記事: ビジネス経営委員会 清水)

第7回大山お地藏さまフェスティバル 第2回実行委員会開催



令和3年12月20日、米子コンベンションセンターにて第7回大山お地藏さまフェスティバル第2回実行委員会が開催されました。

奥森会長、高塚実行委員長をはじめ40名の会員が出席し、各部の部長から企画案について説明がありました。現段階の進捗状況や各部の企画案について確認をし、情報を共有することが出来ました。質疑応答では活発な意見が多々あり、より良いイベントになるよう協議されました。この度の実行委員会を踏まえ、5月15日開催に向けて楽しく喜んでいただけるイベントとなるよう会員一同で引き続き準備していきます。

第7回大山お地藏さまフェスティバルが盛大に開催できるよう、着実に前進していることが感じられる実行委員会でした。



(記事: 渡部)

～卒会にあたり～

やっと、卒会します。

蓼本満梨子 ジェムズ・ブレイン 代表



やっと?「やっと」の意味としては、①長い時間や労力を費やして苦心の末、実現・成立するさま。ようやく。②足りてはいるが、余裕のないさま。かろうじて。

自分はどちらだろうか?恐らくどちらも当てはまるなあと、27歳の入会時を思い出し、残りの中央会生活を送っています。広告代理店時に、会社から送り込まれ、退社とともに退会。独立後、大先輩OBの皆様の助力もあり復帰。出産にあたっては育休制度を作っていたが、休会。2度の浦島太郎のような経験と2回の新入会員経験。本当に多くの皆様のお力添えをいただき、やっと卒会まで辿り着くことができたなあと感謝の気持ちでいっぱいです。

そんなにまでして中央会を卒会しようとした意味は何なのか?まだ本当の意味は分かりません。ただ、この18年の間に、仕事やプライベートな生活だけでは得られない経験や、たくさんの人の考えや行動力、優しさ、不条理さ、情熱に触れ、大いに刺激され、大きく自分の幅を広げてくれた事は間違いないと思います。体型の幅もですが。(笑)中央会は、自分の殻を破り、新しい事への挑戦をさせてくれる場所であったと思います。改めて皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

1月役員会報告

令和4年1月5日(水) 米子市公会堂 集会室6・7にて1月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 12月例会開催の件
- 鳥取県中小企業青年中央会の件
- 第7回大山お地藏さまフェスティバルの件
- 1月新年例会開催の件
- 2月例会開催の件

※なお詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

今年の干支は「壬寅(みずのえ・とら)」。「壬寅」は「陽気を孕み、春の胎動を助く」、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」といった縁起のよさを表しているそうです。皆様公私ともにさらなる成長をし、飛躍した1年になりますように。

(広報委員会 金山 勝)